

金属板を通じて放熱するヒートシンクは、様々な産業機器に使われる重要部品だ。東京・秋葉原の丸三電機は半導体素子用ヒートシンクの中堅メーカー。20年ほど前に電子部品販売からヒートシンク製造に進出し、品質至上主義を貫き事業を拡大してきた。2006年に東京中小企業投資育成からの出資を受けて、さらなる成長発展に向け、人材教育など経営面での支援を戦略的に活用している。

半導体素子用ヒートシンクの中堅メーカー

人材育成に注力 高品質を武器に 事業を拡大

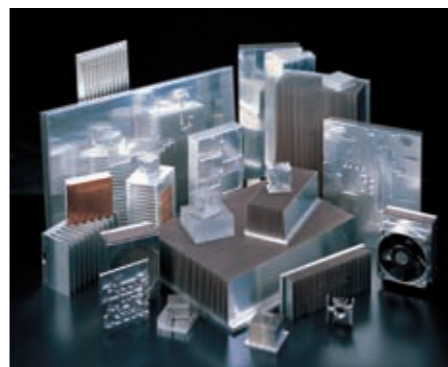


代表取締役社長 竹村元秀氏

「企業育成センターの研修終了後、若手社員がまた受講したいと言っていました。会社の研修など普通は嫌がるものですが、よほど有意義だったのでしょう」。東京・秋葉原に本社を置くヒートシンクメーカー、丸三電機の竹村元秀社長は、そう言っていて目を細める。2006年、東京中小企業投資育成（投資育成会社）からの出資を受けた。昨年6月からは、投資育成会社の子会社で研修・コンサルティングを手掛ける企業育成センターの階層別研修などを活用して人材育成に取り組んでいる。「高い品質は、それに携わる人間の品格から生まれる」が竹村社長の持論。メーカーの使命である高品質・高付加価値な製品の提供と、それを生み出す人材のための企業福祉充実を経営理念に掲げ、半導体素子用ヒートシンクのリーディングカンパニーとして地歩を固めている。

高品質を武器に増収増益 技術提案力も大きな強み

丸三電機のルーツは、竹村社長の親



徹底した品質管理でシェアを伸ばす同社オリジナル、ヒートシンクの数々

族が戦後、東京・秋葉原で始めた電子部品販売店。1963年に電子機器で使用されるツマミや部品などの卸売会社を設立。85年に現在の主力製品であるヒートシンク製造に乗り出し、92年には自社工場を建設した。その陣頭指揮を執ったのが、大学卒業後に入社し、90年に社長に就任した竹村社長だ。バブル崩壊などの危機を乗り越え、現在、埼玉県毛呂山町に2工場を構え、社員50人を擁する。売上高12億7500万円（2008年5月期）、経常利益1億3300万円（同）。国内に数社あるヒートシンクメーカーの中で最後発ながら、顧客の信頼を得て、6年連続で増収増益を続けている。その原動力となっているのが同社製品の高い品質だ。一品一種となる産業機器用ヒートシンクの製造は自動化が難しく、加工に手間がかかり、高品質

東京中小企業投資育成の 価値組企業支援 2008



2006年11月に完成した毛呂山第2工場（埼玉県）。来年には第3工場を建設する予定だ

質を安定して確保するのが難しい。丸三電機では、出荷前の検査はもちろん、素材調達時には抜き取り検査、切断工程でも素材全数検査を実施している。協力会社には、品質傾向分析や不良発生防止などの品質指導を実施、専用チェックシート添付を義務づけるなど、品質管理に力を入れている。加えて、顧客にヒートシンクの形状

や素材など様々な技術提案を行っているのも強み。専門ソフトによる熱解析シミュレーションを駆使して、顧客の製品の小型化・軽量化・工数削減などを支援している。

竹村社長が品質にこだわるのは、苦い経験があるからだ。「ヒートシンク製造に乗り出した直後、不良品を出し、その対応に追われました。これをきっかけに品質至上主義を掲げて経営に取り組むことにしたのです」。

こうした取り組みと並行して、販売面では成長が期待される分野に攻勢をかけた。例えば、急成長した携帯電話の基地局や太陽光発電システムなどで同社製品が数多く使われている。代理店約150社を抱えるほか、直接販売する顧客は200社を超える。

理想実現のために増資 独自の工夫で人材育成

そんな同社が投資育成会社からの出

階層別研修で投資先 企業の成長発展を バックアップ

『企業の格差は人材の格差』。その重要性をいち早く認識し、具体的・計画的に人材育成に取り組んでおられる経営者の方は、企業規模や業種を問わず大変多いと実感します。

投資育成グループでも、投資先企業の人材育成支援を数多く手掛けております。中でも、新入社員から経営トップ層まで、様々な立場で求められる役割の認識や能力向上を狙った階層別研修が大変好評です。

丸三電機さんの場合は、当社の出資を受けられる以前から階層別研修に強い関心を寄せておられ、お知り合いの投資先経営者に実際にヒアリングし、人材育成支援プログラムも入手して熱心に研究されたうえで、投資育成制度のご利用をご決断いただきました。

投資育成グループの目指すところは、投資先企業の皆様の着実な成長発展です。丸三電機さんの更なる成長発展に向けて、今後も貢献できればと思っております。



業務第部調査役
北川真夫氏

資を受け入れたのは2年前。上場を目指すわけでもなく、資金面の心配もない。理由は「開かれた会社にした」という思い。「人材こそが企業成長の礎であり、投資育成会社からの出資受け入れは人材育成面でもプラスになる」（竹村社長）との判断からだ。実際に社員を研修に参加させ、その利点を再認識した。「企業育成センターの研修は投資先の育成のためのものなので、料金が割安。参加するのは投資育成会社の出資先である、様々な業種の優良企業で、社員にはいい刺激になる」。さらに同社では、研修終了後、本人の感想や今後の目標、上司の要望を書き込む面接シートを作成するなど、研修を独自にフォローアップしている。丸三電機では来年、第3工場を建設する計画だ。強みである品質管理や技術開発にも一層力を入れていく。同社の更なる成長を担う人材の育成に、投資育成会社からの支援が役立っている。